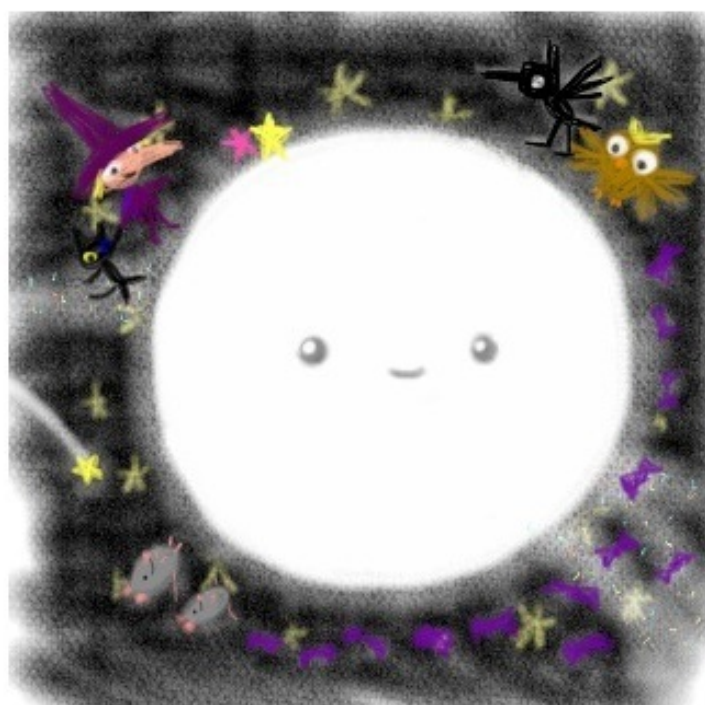
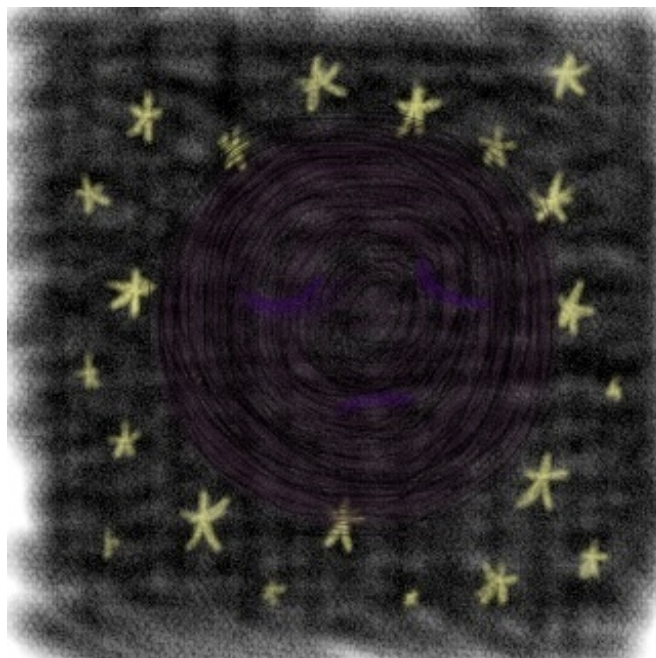


ミチカケの物語



真月乃



まっくら夜空

まぶしい満月のいない夜

星たちは大はしゃぎで

キラキラダンスパーティー

まっくらな空だもの

ぼくらのキラキラが

いちばん光ってかがやける

星たちは好きかっていいほうだい

でもホントはこの夜空にも

お月さまはいたのです

生まれたてのお月さま

まだかがやいてはいません

いつか

やさしい光のお月さまになる

そう思いながら

星たちのダンスを

カゲからみつめていました

朝になると星たちは

お月さまがいなかったコトに

かんしゃしながら帰って行きました

ホントはぼくはココにいるのにと

お月さまはさびしいんぼ

そしてまた夜になり

夜カラスが一羽飛んできました

すると

ちょっと休ませてと

お月さまにとまったのです



お月さまはおどろき

ぼくのコト見えるの？

お月さまはオイラがとまるのにちょうどいいよ

お月さまはゆうべとちがい

ほんの少しだけ

かがやいていたのです

夜カラスは旅の話しをいっぱい聞かせてくれました

お月さまは空から見下ろせば

ほとんど何でも見えたけど

夜カラスの冒険話しに心からワクワクしました

そのお話しはつぎの夜までつづきました

夜カラスは

お月さまとお話しできて楽しかったよ！ありがとう！

そうって旅立っていきました

するとどうでしょう

お月さまのかがやきは

ゆうべよりも大きくなったのです

そこへ一匹の黒猫がやってきました

ぼくは魔女から逃げてきたの

ぼくをお月さまにのせてかくしてください

たいへん！もちろんよろこんで！

ちょうどお空にのぼりはじめたばかりだったお月さまに

黒猫はサッと飛び乗りました



ありがとう！

黒猫がそういった次の日の夜

お月さまのかがやきは

またちょっとだけ大きくなっていました

黒猫はすっかりお月さまがスキになり

お月も黒猫のコトが大スキでした

黒猫はお月さまをスベリ台にしたり

ブランコにしてあそびました



そのたびに黒猫はお月さまに

ありがとうをいいます

すると次の日にはまた

お月さまのかがやきはふえたのでした

いくつかの夜がすぎ

黒猫からたくさんの

ありがとうをもらったお月さま

いつのまにかまん丸の半分ほどに

なっていました

そんなある夜

一羽のフクロウがお月さまとごっつんこ

黒猫もニャッとびっくり



フクロウはたいせつなメガネをなくし

こまっていたのです

お月さまと黒猫は夜の空から

メガネをさがしてあげることにしました

暗い夜の中でも

今のお月さまの光なら

さがしモノをするのにも

こまるコトはありません

すると夜目のきく黒猫が言いました

あれ？湖を見て！

お月さまが二つうつつてる



みんなはジィッと湖を見ました

ホッホ～！

フクロウはよるこびの声をあげました

湖にうつって見えた二つのお月さまは

フクロウのメガネだったのです

フクロウがありがとうと言うと

お月さまはまた少し丸くかがやきました

つぎの夜

メガネをかけたフクロウが

ホホーッ！とさげびました

魔女がくる！

黒猫はサッとお月さまにかくれます



ホウキにのった魔女は

見るからに恐ろしい顔でした

お月さまをにらみつけると

なんだい！まぎらわしい！
黒猫の目と思ったら月じゃないか！

と、いかりました

そして黒猫を見なかったかとたずねながら

お月さまのまわりを

クルクルとホウキで飛びまわりました

魔女はやがてピタリと止まると

はあ〜っと大きなタメ息をこぼしました

するととつぜんポロポロと泣き出したのです

お月さまもフクロウもびっくり

魔女はいいました

あたしがいじっぱりだから

黒猫ちゃんは家出した

今ごろあのコはおなかをすかせて泣いているかも

そしてお月さまにお魚を二匹あずけました

もし黒猫を見つけたら食べさせてあげて

魔女がごめんなさいしてたと

そういつて魔女は東の空に飛んでいきました



魔女がいってしまうと

こんどは黒猫が

ポロポロと泣き出しました

黒猫は魔女の作るごちそうより

お魚が食べたいと

すきキライしていたのです

泣きつづける黒猫をお月さまは

そっとやさしい光でつつんであげました

黒猫は魔女との楽しいくらしを思い出し

そして、ありがとうとおれいをいうと

フクロウのせなかになんて

魔女の家へと帰って行きました



つぎの日の夜

ひとりぼっちになったお月さまは

黒猫とフクロウのことを

思い出していました

みじかい間だったけど

楽しい夜でした

お月さまはみんなに

ありがとう

と、いいました



すると

お月さまはまん丸の

満月になったのでした

やさしい光が

夜の世界に広がっていきました

満月が世界をやさしくてらしていると

小さな声が地上から聞こえてきました

お月さま、お月さま、ここです
ネズミの親子でございます
わたしのこどもがおなかをすかせて
こまっております
チーズのようなお月さまをひとかけら
このコにいただけないでしょうか



満月はまようことなく

どうぞとその身をネズミの親子に
かじらせてあげました

仔ネズミはとびつき親ネズミは

ごめんなさいとあやまりながら

お月さまを一かじりずつしました

また少しかけてしまったお月さま

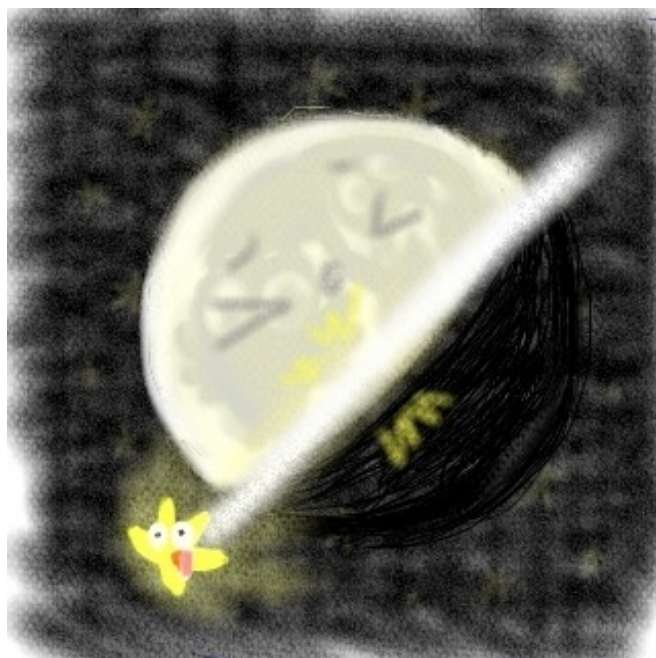
それでもいっしょけんめいに

かがやきつづけています

そこにとつぜん

ながれ星がすごい早さで飛んできました

どかーん！



ながれ星はお月さまにぶつかり

そのひょうしにお月さまは

また少しかけてしまいました

それなのにながれ星は

あやまりもしないで飛びさってしまったのです

ところが

お月さまはおこりもせず

ながれ星がケガでもしなかったかたかと

しんぱいそうにながれ星ののこした

星の光のしっぽをながめていました

つぎの夜

また新しいおきゃくさんがやってきました

わたしはコウモリの隊長である
すまないが
今からコウモリ会議をはじめたい
一晩お月さまをおかりしたい

そう言うとコウモリたちはつぎつぎにお月さまにぶらさがりました

番号！

1！

2！

3！

4！

5！

6！

7！

8！

9！

10！

11！

12！

...13

ところが13番めのコウモリはぶらさがる場所がありません



隊長がいました
すまないお月さま、もう少しぶらさがれる場所を作ってくれ

お月さまはどうぞと言って

また少し細くなりました

13番めのコウモリもぶらさがり

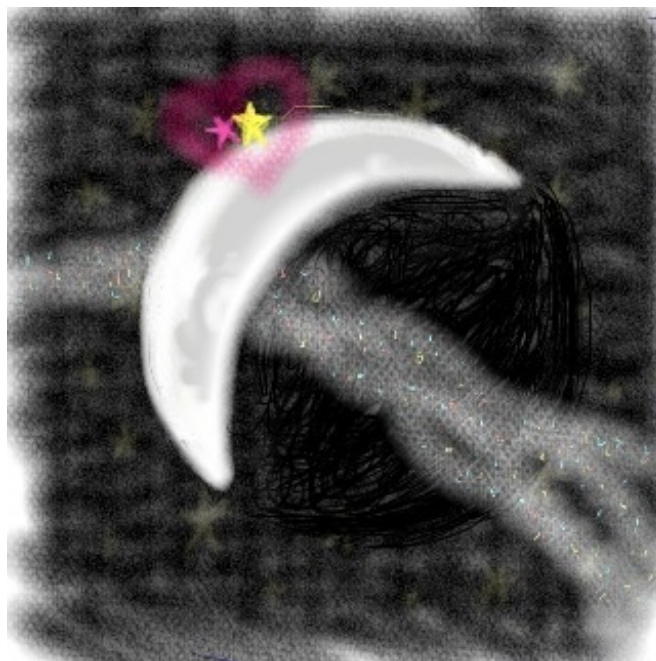
コウモリ会議はぶじに朝までつづきました

その日は天の川がきれいな夜でした

お月さま、お月さまと呼ぶ声にこたえと

天の川をはさんで二つの星がかがやいていました

わたしちは一年に一度だけ
この天の川をわたって会うことが
ゆるされたなかよしです
お願いします、わたしたちが天の川をわたれるように
三日月の橋になってください



お月さまはよろこんで橋になり

二つの星はぶじに今年も出会うことができました

二つの星はとてもなかよしだったので

お月さまは二人だけにしてあげようと

ついにすがたをけしてしまいました

お月さまがかくると

星たちはまた、キラキラとよろこびました

まっくらなお月さまはおもいます

星たちがぼくをキライでも

ぼくは星たちをスキでいよう

ぼくにはたくさんの友だちがいる

ぼくがみんなを大スキでいれば

大スキはどんどんひろがって大きな輪になる

ぼくはみんなが大スキ、みんなありがとう

するとどうでしょう

お月さまの光りは輪になって夜空に広がりました

みんなはうっとり、星たちもいっしょに

なかよく手をつないぎ

いつまでもお月さまをみつめましたとさ



おしまい